

1. 科目名 (単位 数)	基礎演習Ⅱ (1単位)	3. 科目番号	GEBS2108
2. 授業担当教員	新井 洋輔		
4. 授業形態	演習、発表、グループ討議	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	基礎演習Ⅰを履修済みであること		
7. 講義概要	<p>心理学は科学として在ることを示すことで生まれ、また経験と実践の学としても積みあげられてきている。学問としての心理学を学んでいくにあたり、心理学的なものの見方や考え方を養うことは欠かせない。これは、先人の研究成果を正確に読み取り、自身の意見を論理的に組み立てることであったり、臨床心理学的な観点から人間理解を深めることであったりする。</p> <p>本講義においては、心理学の専門的内容を学び始める準備として、心理学の基本的なテーマを取りあげながら、基礎的な知識を身につけると同時に、学問としての心理学の視点・観点を身につけることをねらいとする。講義においては演習や議論、発表を通して、知識と同時に体験的な理解を深めていく。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 心理学的なものの見方や考え方を体験的に身につけていく。 2 心理学の基本的なテーマについて基礎知識を学ぶ。 3 自ら学び、まとめる過程を通して、心理学的視点を身につけ、応用する力を養う。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポ ート課題	後述の授業展開における学習課題を参照すること。事前学習・事後学習における「まとめる」「考察する」は原則として400字程度とするが、個別に講義内で指示する。		
10. 教科書・参考 書・教材	<p>【教科書】 大野木裕明・宮沢秀次・二宮克美(編)『調査実験 自分でできる心理学』ナカニシヤ出版。</p> <p>【参考書】 1. 松井豊(著)『改訂新版 心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くためにー』河出書房新社。 2. 桑田てるみ(著)『学生のレポート・論文作成トレーニング』実教出版。</p>		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)心理学的なものの見方や考え方を体験的に身につけることができたか。 2)心理学の基本的なテーマについて基礎知識を学べたか。 3)自ら学び、まとめる過程を通して、心理学的視点を身につけ、応用する力を養えたか。 <p>○評定の方法</p> <p>学則で定められた単位取得の条件(3/4以上の出席)を満たしていることを前提として、授業態度(授業への積極的参加や発言)50%、試験にかわる課題レポート50%として算出した合計得点により成績評価を行う。</p>		
12. 受講生への メッセージ	<p>「基礎演習Ⅰ」の内容に継続した実習と、「心理学基礎実験」等の今後のカリキュラムにおけるレポート作成に必要な知識・技術を身につけるための内容とを含みます。1年次の「文章表現」や「心理学統計法」の講義内容を復習してから臨んでください。対面講義・遠隔講義の別や、皆さんの理解度・達成度によって、授業展開の順序や内容を変更する場合があります。</p> <p>わからないことについては、質問を歓迎します。なお、演習の課題への取り組みを評価しますので、欠席・遅刻・早退や、内容に関連しない私語、居眠り等は減点の対象となります。</p> <p>初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。</p>		
13. オフィスアワー	授業内で提示する。授業時間外での来室相談を希望する場合は、yoarai@ed.tokyo-fukushi.ac.jp宛に、一週間前までに「授業名・クラス・学籍番号・質問の概要」を記載したメールで予約をとること。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	受講契約、オリエンテーション ー研究レポートとはー	事前学習	本シラバスの内容を熟読し、本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく。
		事後学習	「感想文」と「学術レポート」の違いを明確にし、まとめる。
第2回	心理学のレポートとは 心理学知見の収集方法	事前学習	「心理統計法」「文章表現」等を復習し、レポートの記述ルールを確認しておく。
		事後学習	科学レポートについて誤った理解をしていた箇所を確認する。
第3回	研究レポートの書き方①：文献収集 ー資料の検索と根拠の提示ー	事前学習	前回決定したテーマについて、心理学の文献を検索・収集して引用文献一覧を作成する。
		事後学習	講義内容をもとに、引用文献一覧の修正を行う。
第4回	研究レポートの書き方②：研究史 ー引用と主張の違いー	事前学習	引用と主張の違いや引用文献の記載法について整理しておく。
		事後学習	講義内容を踏まえ、引用文献をもとに研究史を執筆する。
第5回	研究レポートの書き方③：目的 ー資料の読み取りと主張点の記述ー	事前学習	先行研究の問題点を指摘して研究目的を執筆する。
		事後学習	講義内容を踏まえ、事前学習で執筆した研究目的を修正する。
第6回	実習：論理的思考	事前学習	教科書の p.65 にある問題1と問題2に取り組む。

		事後学習	p.66 を読んで、問題の意味を理解し、論理的思考について考察する。
第7回	実習：直感的判断の誤り	事前学習	教科書の p.69 の二つの質問に答える。
		事後学習	教科書の p.68 と pp.70-71 を読んで、日頃何気なく行っている判断や推理について考察する。
第8回	実習：性役割観	事前学習	教科書の p.15 の「やりかた」を読んで表に記入し、自分の傾向について確認する。
		事後学習	教科書の p.14 および pp.15-16 を再読し、ジェンダー・ステレオタイプについて理解する。
第9回	実習：CAS 尺度	事前学習	教科書の p.19 の CAS 尺度項目に答える。
		事後学習	普段の自分が取っている言動を振り返り、自分が持つ性別へのこだわりを客観的に考察する。
第10回	実習：傾聴	事前学習	教科書の pp.74-77 を熟読する。
		事後学習	人が人の話を聞くことの意味について、出来る限りの様々な観点から考察する。
第11回	実習：面接における表現技法	事前学習	教科書の p.79 にある面接カードに記入しておく。
		事後学習	評定項目によって、自分の表現力を客観的に評定し、今後の講義での自己表現における課題・目標を検討する。
第12回	実習：セルフ・エフィカシー	事前学習	教科書の p.109 にある一般性セルフ・エフィカシー尺度の各項目に回答する。
		事後学習	教科書の pp.108-111 を熟読し、セルフ・エフィカシーの程度と様々な個人特性との関連について考察する。
第13回	実習：LETS-2	事前学習	教科書の p.129 の課題を実施する。
		事後学習	講義の内容を踏まえて、自分の類型に関して考察する。
第14回	実習：私生活主義的傾向	事前学習	教科書の p.125 の質問紙に記入する。
		事後学習	p.124 と p.126 を熟読し、自分の日頃の「生き方」、日常生活全体を振り返る。
第15回	実習：学校適応	事前学習	普段の自分の勉強の仕方を思い起こし、教科書の p.113 の学習適応尺度により客観的に学習適応を測定する。
		事後学習	教科書の pp.112-115 を熟読し、これまでの自分の勉強の仕方を分析して、今後取ることが出来る改善策を具体的に考える。